



撮影地：村松ステーション

Field Center for Sustainable Agriculture and Forestry

Faculty of Agriculture, Niigata University



農学部附属フィールド科学教育研究センター長

山田 宜永
Takahisa Yamada

1949年(昭和24年)に新生国立大学として新潟大学が創立され、旧中蒲原郡村松町にあった新潟県農林専門学校(現・村松ステーション)を母体として新潟大学農学部が設立されました。また、佐渡の演習林(現・佐渡ステーション)も歴史は江戸時代に遡ります。旧農学部附属農場(現・耕地生産部「村松ステーション、新通ステーション」)と演習林(現・森林生態部「佐渡ステーション」)と新規設立の企画交流部が合体し、フィールド科学教育研究センターが発足しました。

この間、企画交流部は対外連携の企画立案や事業を実践してきました。具体的には長岡市森光地区との地域交流、刈羽村のバイオドーム、新潟市農業活性化研究センター発足協議や県内外の農業研究機関等との連携があります。森林生態部は朱鷺放鳥や佐渡の天然林紹介で、新聞テレビ等で報道される場面も多くなりました。耕地生産部においては近隣住民の親子農業体験事業や五泉市立愛宕中学の農場実習等を実施してきました。

学部教育としては基礎農林学実習をはじめ、フィールドセンターは学部内外の実習の場として機能しています。佐渡ステーションは文部科学省の教育共同利用拠点に認可され、学外の教育機関との連携を更に深めています。村松ステーションは五泉市ニット産業との連携事業やブランド乳製品の開発や五泉市立愛宕中学との教育連携を更に進めていきます。新通ステーションは新潟市西区との連携事業を通じて地域の農業教育を進めています。また、新潟市に新設された新潟市農業活性化研究センターと連携しています。

21世紀は農業・農学および環境の世紀といわれています。食料問題、気象変動、環境問題に待ったはありません。当センターはフィールド教育・研究の担い手としてその最前線でありたいと思います。

2013年から教職員スタッフが増員され、充実したスタッフで新規の事業を展開していきます。

2017年6月

農学の教育・研究分野は20世紀型の「効率的なシステムの追求」から、21世紀型の「人にも自然にも安全な生産システムの追求」へと変化しています。その変化にレスポンスよく対応するためには個別の科学の発展のみならず、それらの総合化の視点からの教育・研究が重要となってきます。そのような教育・研究の一端を担い、21世紀の農学教育・研究をコーディネートしていける組織として、農場・演習林を有機的に統合し、新しい生物圏の総合科学「フィールド科学」の教育・研究をします。

●地域計画管理の視点を取り入れ、日本を代表する農業生産地域、その背後で様々なサービスを提供する積雪地森林地帯、そしてそれらの地域が接触して両者の機能が融合している中山間地が連続する新潟県の立地を生かします。

●地域社会に対して教育の場を開放するとともに、大学での研究・技術開発の成果を社会に還元する窓口になります。

●日本海を挟んで向かい合い、環境問題、食糧問題が深刻化しつつある東アジア地域を視野に入れ、共同研究の受け入れを積極的に行ないます。

●農場や演習林が単独では果せなかった機能、すなわち生物生産機能と環境保全機能の高い次元での調和を前提とした教育・研究を実施する機能を果たします。



教授 崎尾 均
(樹木生態学・水辺林)
准教授 本間 航介
(森林生態学)
助教 阿部 晴恵
(森林生態学)
特任助手 菅 尚子
(森林生態学)

技術職員 2
非常勤職員(事務補佐員) 1
非常勤職員(技術・技能) 3
非常勤職員(用務員) 1

センター長
教授 山田 宜永
(動物遺伝学)

地域社会 / 東アジア

企画交流部
農学部五十嵐キャンパス

森林生態部
佐渡ステーション
村松ステーション

耕地生産部
村松ステーション
新通ステーション

FC運営委員会

学部長、評議員、3学科長、
センター長(委員長)、センター教員、農学部事務室長、
センター長指名教員、センター長指名技術職員

農学部

組織・運営

教授 山田 宜永
(動物遺伝学)
客員教授 星 豊一
(水稻育種)
事務職員(センター係) 1
非常勤職員(事務補佐員) 1

教授 高橋 能彦
(土壌肥料学)
准教授 韓 東生
(園芸学)
助教 吉田 智佳子
(畜産繁殖学)

技術職員 7
非常勤職員(技術) 2
非常勤職員(事務補佐員) 1

マップ



農学部へのアクセス

新潟空港から新潟駅まで

約30分毎にバスが出ています。

新潟駅から新潟大学まで

- ①鉄道利用
- 1.JR越後線にて 新潟駅 → 新潟大学下車(約22分)
 - 2.新潟大学前駅 → 新潟大学正門(徒歩約15分)
- ②タクシー利用
- 1.新潟駅 → 新潟大学正門(約35分)
- ③バス利用(新潟交通「新潟大学行き(経由)」乗車)
- 1.新潟駅 → 新潟大学正門(約45分)
 - 2.万代シティバスセンター → 新潟大学正門(約40分)
 - 3.古町周辺 → 新潟大学正門(約35分)

新潟大学農学部
附属フィールド科学教育研究センター

<http://www.agr.niigata-u.ac.jp/fc/>

農学部五十嵐キャンパス(企画交流部)

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050
TEL 025(262)6672 / FAX 025(262)6594

村松ステーション(農場 25ha, 苗畑 1.4ha)

〒959-1701 五泉市石管根6934
TEL 0250(58)5737 / FAX 0250(58)7046

新通ステーション(水田 2.2ha, 畑 0.5ha)

〒950-2035 新潟市西区新通2156-1
TEL/FAX(兼) 025(260)1633

佐渡ステーション(人工林 35ha, 天然林 470ha)

(文科省教育関係共同利用拠点)
〒952-2206 佐渡市小田94-2
TEL 0259(78)2613 / FAX 0259(78)2929



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

企画交流部

● 教育

農業大県新潟の地の利を活かして「農」に触れ、親しみ、理解する実習教育を提供しています。

- 『地域交流サテライト実習』
～農林現場体験、試験・研究機関、食品企業見学など～
- 『基礎農林学実習』
～全学科を対象とした専門基礎技術の習得～

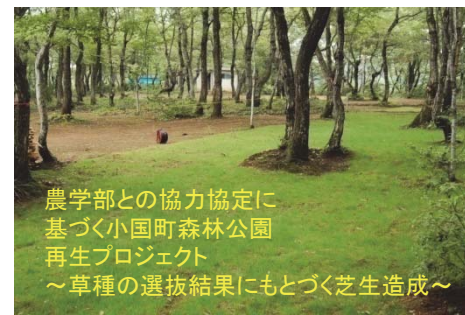


地域の農家や生産組合で学ぶ

● 地域連携

企画交流部は地域への窓口～いつでもオープン～

- 地域のニーズに応じた公開講座・ワークショップの企画・実施
- 中山間地集落活性化事業の支援



農学部との協定に基づく小国町森林公園再生プロジェクト
～草種の選抜結果にもとづく芝生造成～

● 研究・企画

ローカルおよびグローバルな視点で今日的なフィールド科学の課題を取り上げ、学部・プログラムを超えたプロジェクトを企画・実施しています。

- 地球温暖化によるコメ品質障害の克服
～圃場レベルから分子レベルまで～
- 自然災害からの「復興科学」の提案と検証
～新潟豪雨・中越地震から学ぶ～
- 紫黒米の栽培試験
～コメの新しい付加価値を求めて～
- 地域研究機関との連携、企画調整
～農業県新潟に密着した課題の解決に向けて～
- フィールド研究に関するシンポジウム企画



産官学連携ビール「越の知恵しぼり」

耕地生産部

● 教育

- 村松ステーションでは、宿泊しながら畑作・牧草管理や乳用牛の管理の実習
- 新通ステーションでは、水稻栽培や転作野菜・花卉の栽培実習
- 基礎農林学実習・卒業研究など、教育・研究の場として広く活用



● 地域連携

- 児童・園児の見学受け入れ
- 五泉市立村松桜中学校の農場実習
- 新潟市西区農業体験教室
- 酪農教育ファーム活動
- 在来野菜の特産化
- 地元産品を使ったオリジナルアイスの開発



※ 村松ステーションは、酪農教育ファーム地域交流牧場です



村松桜中学校農業教育

小学生の牧場見学

● 主な研究課題

- 水稻の生産性と品質向上
- 廃棄系有機物の肥料利用
- 園芸作物の高品質栽培
- 園芸作物の育種素材の開発
- 乳用牛の繁殖成績向上のための研究
- 資源循環型酪農の実践
- 技術職員の一人一課題研究



● 生産活動

- 村松ステーションでは、各種野菜と、畜産安心ブランド生産農場（クリーンミルク）に認定された牛乳を生産
- 新通ステーションではコシヒカリや各種転作野菜を栽培
- 酒米の栽培と大学ブランドの日本酒



新潟大学60周年記念大吟醸酒
新雪物語「華甲」

乳牛の搾乳体験

森林生態部

● 教育

佐渡の雄大な自然をつくる厳しい気候と森林の維持機構の関係性を知る。

- 基礎農林学実習
～森林生態系の観察
天然林、人工林、里山の構造や機能を比較
～生態系管理の実践
里山、ビオトープの維持管理の体験
- フィールドワーカーのための
リスクマネジメント入門
～フィールドワーク、その基礎と実践
～救命救急法、気象予報、ロープワーク、トレッキング
キャンプ
- 農学部生産環境科学科各種実習
～防災、林道、育林、樹木学など～

- 他大学の演習林教育共同利用実習の開催
(平成24年度より佐渡ステーションは文科省教育関係共同利用拠点に認定)
～環境教育、動物植物生態学、樹木学
～公開森林実習(公募)
全国の大学生・大学院生が参加



佐渡ステーション(演習林)のスギ天然林

● 研究

森林生態系の仕組みと成り立ちの研究を通じて、生物多様性の保全を目指す。

- 生物多様性モニタリング研究
～長期大規模動態調査(LTER)、気象観測など
- 溪畔林研究と森・川・海の連続性の解明
～佐渡島の自然河川における溪畔林の更新動態の解明、河川流域におけるイベントと沿岸環境変化の関係性
- 高ストレス高攪乱環境下での森林動態の解明
～日本海型気候下における森林生態系の成り立ちの解明、木本植物のクローナル生長戦略の解明など
- 樹木や草本の繁殖戦略と生活史
～スギ、サワグルミ、マタタビ、カツラ、ヤナギなどの樹木の開花、結実、種子散布、実生定着、更新動態
～希少植物個体群の遺伝的構造の解明とその保全

● 地域連携

- 佐渡市及び新潟大学他施設との連携
～エコツーリズム・ジオツーリズムの支援
佐渡観光協会との連携事業
エコツアーガイドとジオツアーガイドの養成
～朱鷺自然再生学術センター・理学部附属臨海実験所との連携
実習の協働実施・三施設合同シンポジウムなど
～佐渡ゼミの開催
島内外の研究者による研究発表
- 公開林間実習
～佐渡ステーションスギ天然林の公開と実習型環境学習